

メッセージアウトライン

ヤコブの手紙 4:6~10「さらに豊かな恵み」

[6]「しかし、神は、さらに豊かな恵みを与えてくださいます。ですから、こう言われています。『神は、高ぶる者を退け、へりくだる者に恵みをお授けになる。』」

6節前半で言われていることは、もし神が私たちに生まれつきの肉の力ではできないような大きな要求をされたとしても、神はそれをできるようにするために大きな恵みを与えてくださると言う意味である。私たちの足りないところ、できないところが多ければ多いほど、神の与えてくださる恵みも大きい。しかし、そこにおける原則は「神は高ぶる者を退け、へりくだる者に恵みをお授けになる」ということである。「高ぶる者」とは「他の人の上に自分を置く者」という意味。高慢は罪の大きな源である。ここから多くの罪が出て来る。悪魔の墮落は高慢が原因であった。→イザヤ 14:12~15、エゼキエル 28:11~16

高慢が人を神から締め出す三つの理由。(神学者ウィリアム・バークレー)

①高慢は自らを高い所に置くので、自らの欠けを悟ることができず、それゆえ、その欠けを満たし、正すことを神に願い求めるようなことはしない。②高慢は自らの独立に固執し、神に頼ろうとしない。③高慢は自らを正しいとし、自分が神の前に罪人であり、それゆえ救われなければならないことを認めない。

高慢は自分を愛するが、神は愛さないのである。それゆえ神もこのような高慢な者を受け入れられることはない。神は高ぶる者を退けられるというのは全くの真理である。しかし、逆に神はへりくだる者に恵みをお授けになる。へりくだる者とは謙遜な者のことであり、このような人は自分の分をわきまえ、弱さや不完全さを認め、神の助けがなければ何事もなしえないことを知っている。それゆえ神を待ち望む者となる。このような人にこそ神の恵みが与えられるのである。→詩篇 51:17

[7]「ですから、神に従いなさい。そして、悪魔に立ち向かいなさい。そうすれば、悪魔はあなたがたから逃げ去ります」

ここからは実践的な勧めがなされている。①神に従いなさい。…心の中では反抗しつつしぶしぶ従うのではなく、へりくだった心をもって従う。その時、神は豊かな恵みによって心から従うことができるようにしてくださる。②悪魔に立ち向かいなさい。…神に従うことは逆に言えば悪魔と戦うことになる。主イエスもその公生涯の始めに悪魔の誘惑を受けられた。しかし、主は神のみことばをもってこれを撃退された。→マタイ 4:1~11

悪魔と戦うときの武具。→エペソ 6:10~18

神の助けなくして私たちは弱い者であるが、この悪魔との戦いにおいて神は大きな恵みをもって私たちを助け、勝たせてくださるのである。

[8]「神に近づきなさい。そうすれば、神はあなたがたに近づいてくださいます。罪ある人たち。手を洗いきよめなさい。二心の人たち。心を清くしなさい」

旧約時代、神殿において神に近づくことができたのは祭司だけであり、しかも罪の贖いのための動物の血をもってでなければ近づくことができなかった。

しかし、新約においては贖い主イエス・キリストの血のゆえに、すべての人がいつでも自由に神に近づくことができるようになった。→ヘブル 10:19~22 そして神もまた私たちの方へあの放蕩息子の父のように走り寄って来てくださるのである。→ルカ 15:11~20

「罪ある人たち。手を洗いきよめなさい」とはクリスチャンは主イエス・キリストを救い主と信じ罪赦され永遠のいのちが与えられている者であるが、この世にあっては肉の弱さのためになお日々神のみこころにかなわないことを行い、またそのように生きることがある。それゆえそのような罪の生き方から立ち返って、いつも神の前にきよく生きていくように励むようにと勧められているのである。→I ヨハネ 1:8~9

「二心の人たち」とは神とこの世と二股かけている人たちのこと。このような人々はもう一度主イエス・キリストの十字架を見上げ、その流された血と苦しみ、払われた代価はだれのためのものであったかをよく考え、聖霊によって心を清められなければならない。

[9-10]「あなたがたは、苦しみなさい。悲しみなさい。泣きなさい。あなたがたの笑いを悲しみに、喜びを憂いに変えなさい。主の御前でへりくだりなさい。そうすれば、主があなたがたを高くしてくださいます」

私たちは罪を悔い改めて神に近づく時、感じるのは、苦しみであり、悲しみであり、嘆きではないだろうか。自分が犯した数々の罪や失敗を思い、悲しみ嘆くのである。しかし、実はこのような態度こそ神の御前に受け入れられるものなのである。ルカ 18:9~14 にあるパリサイ人と取税人のたとえのように、自分を誇ったパリサイ人ではなく、自分の胸を打ちたたいて嘆き、悲しみ、主のあわれみを求めた取税人の方が主に受け入れられたのであった。

神の前における真剣な悔い改めこそ、高ぶりや不信仰から来る軽薄な笑いや喜びを、悲しみや憂いに変えるものである。そして 10 節は主の前でへりくだることの勧めである。そうすれば、主がそのようにへりくだった者を高くしてくださるのである。

私たちも、神の前にへりくだり、謙遜な者となって、神からの豊かな恵みをいただき、それを味わい成長していく者となっていかなければならない。